

<プロフィール>

【山田直毅／やまだなおき】



6歳よりクラシックピアノを故太田貞子、坂田弓子両氏に師事する。その後、ピアノ調律師としての道を歩むが、やがてヴォーカリストを目指し98年にシャンソンを千城恵氏に

師事する。僅か2年で『第16回日本アマチュアシャンソンコンクール全国大会』でグランプリ受賞。

以後、シャンソン&ポップス歌手として京阪神を中心に全国的にコンサート活動を行うかたわら、姫路・加古川・神戸・京都でシャンソンやポップスを歌うヴォーカル教室を開講している。

シャンソン以外では、親子3代で楽しめるファミリーコンサートやジャンルを超えて幅広く歌を楽しむ“歌声喫茶”の開催、『お城サンバ』『姫路おでんソング』『青山賛歌』、福崎町立田原小学校創立100周年記念ソング『田原っ子の歌』など、地域ソングの作曲など、音楽での地域活性化にも力を注いでいる。

一昨年の3月にファーストアルバム『愛のシンフォニー』をリリースし、現在精力的にコンサート・ライブ活動を展開中。日本シャンソン協会正会員。

<予定曲目>

愛の讃歌 百万本のバラ マイウェイ 慕情 他

<ピアノ伴奏> 井高寛朗

山田直毅ホームページ

<http://eforte.ikidane.com>

【スィング・フェローズ】

<予定曲目>

さらばローマ 国境の南 パリの四月 ブラジル
マドリッド シカゴ マンハッタン カプリ島
シャンハイ



■沖塩昌太 (コントラバス)

中学時代よりブラズバンドでクラリネットを始め、その頃よりジャズに目覚める。大学時代は東京で勉学に勤しむ？かたわらジャズ喫茶に通い、レコードや生のジャズを聴きあさる生活。卒業後は地元姫路に帰り、しばらくはおとなしくしていたが、陽気なデキシードジャズのグループであるキャッスル・ジャズバンドに参加しコントラバスを独学で始め、30数年在籍し現在に至る。演奏スタイルは独学のハンディを努力と人間性？でカバーし、少ない隠れファンもいるとか？

■中谷宣昭 (トランペット)

高校時代よりブラスバンドでトランペットを始め、グレンミラー楽団やベニーグッドマン等に憧れて、大阪のダンスバンドに入り演奏活動始める。その後ある縁で、姫路で就職したが、トランペットを趣味で続けていたところ、キャッスル・ジャズバンドのメンバーに欠員が出来たので参加し、現在に至る。演奏スタイルは派手なパフォーマンスはしないが渋い演奏は多くの聴衆を魅了する。

■古川仁 (ビブラフォン)

ビブラフォンの音色に魅せられて会社の仲間達とスィングジャズバンドを結成し楽しんでいたら、いつの間にか人数も増えビッグバンドに成長し、求められてトロンボーンも吹くようになる。そのお陰でキャッスルジャズバンドにも参加する機会ができ、現在に至る。演奏スタイルはビブラフォン、トロンボーン、ピアノも演奏するマルチプレイヤーでそのファンも多い。

■吉田圭 (ドラムス)

4歳でクラシック・ピアノを習い、13歳で母が友人からドラムセットを譲り受けたのを機に独学でドラムを始める。21歳で関西ジャズ四天王ドラマーの河瀬勝彦氏に師事する。23歳でKドラムスクールを開校し、多くのドラマーを育てるかたわら、25歳でキャッスルジャズバンドのメンバー欠員を機に参加し、現在に至る。演奏スタイルはどんなジャンルのドラムも演奏でき、若いドラマーの憧れの的でもある。

■岐部共彦 (ギター)

ゲスト出演